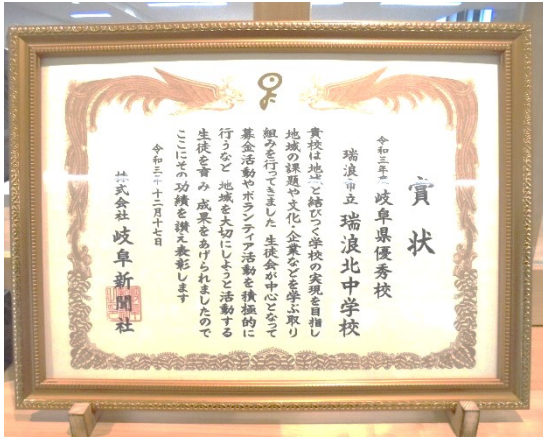


【12月17日】

岐阜県優秀校の受賞式が行われました



統合して3年目。まだまだ歴史の浅い北中がなぜ受賞できたのか……それは生徒の主体性が評価されたからです。

統合初年度は、地域のボランティア依頼に応え、延べ約400名の生徒が地域で活動しました。地域に協力するというのが初年度の地域貢献の形でした。

しかし、コロナ感染症が世間を騒がせた次年度は、地域からのボランティア依頼が影を潜めました。そこで北中生が考えたのが、夏に大雨で倒壊した大杉の再生支援でした。この時初めて、学校から地域に寄り添う形の地域貢献の形が生まれました。

そして、今年度。校区の全ての地区に花を贈る新しい形の地位貢献が生まれました。小さな花でしたが、そこに込められた北中生の気持ちは大きく、そして、温かいものでした。



自分たちで課題を見つけ、自分たちで取り組みを考え自分たちで実践した主体性が高く評価されました。

この日の午後3時より、岐阜市岐阜新聞社本社において、令和3年度岐阜県優秀校の授賞式が行われました。今年度は小学校2校、中学校2校が受賞しました。

北中からは、市川生徒会長と安藤校長が代表で出席し、岐阜新聞社代表取締役社長の矢島氏より賞状と記念トロフィー、そして副賞を受け取りました。

9:41

63%

創意光る教育を実践 岐阜県優秀校4校表彰式

教育

2021年12月18日 08:24



第64回県優秀校の表彰式で賞状を手にする4校の児童生徒と校長ら＝17日午後3時25分、岐阜新聞社本社

小中学校の優れた教育実践をたたえる第64回県優秀校（岐阜新聞社 岐阜放送主催、県教育委員会協力、小学館協賛）の表彰式が17日、岐阜新聞社本社で行われた。今年の優秀校は那加第二小学校（各務原市）、南ヶ丘小学校（関市）、瑞浪北中学校（瑞浪市）、下呂中学校（下呂市）の4校。

式典では、各校の児童、生徒、校長らに矢島薫岐阜新聞社長から表彰状が贈られた。堀貴雄県教育長は「コロナ禍で発表の場はことごとく失われたが、みんなで成果を残してくれた。取り組みが引き継がれていくことを楽しみにしている」と述べ、4校の実践をそれぞれたたえた。

